

# 図書館たより

号数	第 65 号
発行日	昭和59年 6月25日
編集発行	島根県立図書館
	松江市内中原町52
	TEL (0852) 22-5725
印刷	渡部印刷株式会社

## 金城町

**設置場所** 金城町みどり会館  
**担当者** 河野文影  
**貸出期間** 14日間  
**蔵書冊数** 4,470冊  
**図書購入費** 35万円  
**特 色**

「良い本に出会いませんか」「読書ともだち  
 つくりませんか」「読書グループ活動すすめま  
 せんか」——金城町図書センター活動は、図  
 書資料の整備をすすめながら、センターを仲  
 だちとした文化的な場づくり、ふれあいの場  
 をひろげる中で読書普及を行っていきたく  
 と思います。

昭和56年から保育所を軸として推進してき  
 た親子読書も、「親子の絵本づくり」などをと  
 り入れ、本に親しむ活動、本を楽しむ活動へ  
 と、読書意欲を高めるべく取り組みを進めて  
 きました。

図書センター指定を受けるにあたり、図書  
 室の一部改造を行って69㎡（資料室含）。蔵書  
 4,500冊に加え、県立図書館より借受図書5,000  
 冊。これにより図書センターと地域を結ぶ一  
 坪図書館7館、保育所5ヶ所の配本システム  
 の確立もでき、それぞれの館の担当者連絡会  
 をもちながら読書普及を図ります。

図書室と併設の資料室の利用には、郷土資料、町  
 内各種団体グループ活動資料等の収集を行い、「ふる  
 さと教材」を活用した学習の場、読書グループ、各  
 種サークルの育成、交流の場として期待しています。

さらに、金城イチロク会（16ミリの会）の協力  
 のもとに、図書センター利用の児童生徒を対象として  
 毎週金曜日（6月、7月）に子供フィルム劇場を開  
 くことなど、小さいながらも楽しく利用のすすむ図  
 書センターをめざしたいと思います。

広報活動を工夫しながら、広く住民の皆さんの利  
 用、参加の得られる図書センターをつくりたいと思  
 います。  
 （金城町教育委員会）

## 頓原町

**設置場所** 頓原町社会教育センター  
**担当者** 大森民雄  
**貸出期間** 10日間  
**蔵書冊数** 5,195冊  
**図書購入費** 40万円  
**特 色**

唯一の公民館（社会教育センター）に、町  
 図書館（80㎡）があり、県立図書館からの借  
 受図書5,000冊とで10,000冊を越える図書で  
 出発します。

しかし、昨年までは3,000冊余の蔵書で細  
 々と活動していましたので、町民の読書に対  
 する意識の薄い中で、図書センターの機能を  
 十分に生かされるかどうか危惧をいただ  
 いてるところです。

その中であって、昭和56年から、保育所  
 における親子読書の導入を契機として、絵本を  
 仲立ちとした家庭への読書普及、また従来か  
 らある地域への図書配本等、徐々に本に対す  
 る愛着が芽ばえているのが救いです。

そこで、今年度は役場、志々連絡所等の公  
 共機関へ一般図書を配本し、住民の皆さんが  
 手軽に借りられるようにします。

また、小地域ごとにボランティアによるマ  
 マさん文庫を設置し、親子読書用の絵本等が  
 いつでも入手できるように予定しています。

さらに、小学校へも昨年に引き続き配本していま  
 す。

今年は、センターとしての初年度ですので、地区  
 配本活動、ボランティアの育成に力を注ぎ、図書セ  
 ンターの基礎がためをしながら、読書人口の増加を  
 はかりたいと思っています。

（頓原町教育委員会）

## 新図書センターの横顔



# 私たちの文庫活動 ①

楯縫文庫  
たてぬい児童文庫

代表者名 角 秋 義

開館してから文庫が4年、児童文庫の方が2年になろうとしています。床面積は延124.8㎡、鉄骨2階建て、初めから図書館として母家の建築に併せて建てたものです。

私は小学校の教員からスタートしていますので、行く行くは自分の郷里の学校に帰って図書室でも作り、村の子どもや青年達に読書を奨める活動をしたものだと考えていました。ところが上級の学校に進学して高校の教員になり、教育学を専攻していたので社会科を教えるようになりました。

もともと本好きの私でしたので、読書もさることながら、いい本ということになるといつかは読めるだろうということで、小遣いの大部分を本に使ったものです。東京にも前後5年いましたので、本の購入にはよい機会に恵まれました。本が手に入りにくい終戦前後なども、本屋につききりでなんとか手に入れたものでした。読みたい本を買うために、かなり沢山の本を売りましたが、それでも退職の時には蔵書が5千冊くらいになっていました。この蔵書をもとに、長年あためていた夢を実現したというわけです。

図書の分類、整理、原簿づくり、ラベル貼りなど準備に1年かかりました。親戚、知人などの支援、協力もあって書架を購入し、昭和55年12月、階下に「楯縫文庫」を開設しました。その後伊藤忠、日本生命などの助成金を得て階上を内装し、書架を入れぼるぷ出版、福音館書店、岩波書店などから、絵本を中心に子どもの本を買って、2年後の9月「たてぬい児童文庫」を開設したわけです。その外階上には雑誌、パンフレット、新聞切抜きのスクラップブックなどの資料約2千点があって、資料室のコーナーにもなっています。

蔵書は、階下が5千冊、階上が千冊で出発したのですが、その後寄贈と購入で7,300冊、2,000冊にそれぞれ増え、併せて1万冊近くになりました。階下の方は、私の専攻の関係で宗教・哲学・歴史・地理・政治・経済・教育学などの社会科関係の図書が多く辞典、郷土関係、文学、美術全集などもかなりあります。その外新書や文庫類も多く、寄贈で推理小説がかなり揃っています。

文庫の運営は、一応運営規則により、10人の運営委員会によってなされています。文庫の運営や、図



絵本の読み聞かせ

書の購入について助言を頂いたり、図書の寄贈、隔月発行の機関紙「たてぬい」の普及配布、広告とりまで協力を頂いています。その外、読書の普及、図書資料の購入、本の貸し出し「たてぬい」の発行のために、会員制度を導入していますが、現在114名の御加入を頂いています。

文庫は各種の小会合や研究会に会場を提供したり、読書会を主催したりして、図書、資料の利用、読書活動などを奨めています。親子読書会も、児童文庫開設後4回ほどやっていますが、県立図書館から来て指導して頂いたり、平田高校の図書館とも連携して、高校生による「読みきかせの会」を催したりしています。親子読書会は文庫利用者に熱心な方もあり、市の図書館や保育園あたりとも連絡し合って、定期的なものにできたらと考えています。

階下の方は、先生、主婦、高校生、老人の方達の利用がぼつぼつですが、階上の子どもの方はかなり活発に利用されていて、1日平均4～5人はやってきます。

将来は、児童図書をもっともっと増やしたいし、階下の方も、郷土関係、教育関係の図書を充実して、父母、教職員の専門的な図書館にしたいものだと考えています。そのためにも会員をふやし、機関紙「たてぬい」の発行を続け、普及し充実していきたいと思っていますので、皆さんの利用と協力、御支援をお願いしたいと思います。

所在地 平田市国富町762-3

TEL (08536) 2-3537

休館日 毎週土・日曜日

開館時間 9:30~18:00

# 子ども読書会用図書紹介

## 読書会用図書の利用をどうぞ

今年度より、子ども読書事業が始まりました。モデルに指定された吉田村、東出雲町、大東町などで子ども読書グループが誕生し、読書会が行われています。当館では同一図書15冊を1セットにし、児童書113セットを揃えています。グループに2ヶ月以内貸し出します。その中から数冊紹介します。

### ぞうのババール

ブリュノフ作 やがわすみこやく  
評論社 980円

ぞうの子ババールは、大きな森の国で幸せに暮らしていたが、ある日、散歩の途中で母親が獵師に撃たれる。逃げる途中、親切な老婦人に拾われ、立派に育てられる。成人したババールは森へ帰って王様になる。ババールの好奇心に満ちた子どもらしい気持とあこがれや願いを叶えるストーリーは、生活の細部をていねいに描いた暖かみのある絵とともに子どもをとらえて離さない。フランスを代表する古典的絵本。

### しろいうさぎとくろいうさぎ

ガス・ウイリアムズぶん・え 松岡享子やく  
福音館書店 720円

森の中に住む白いうさぎと黒いうさぎはいつも一緒に遊んでいたが、そのうちに黒いうさぎは白いうさぎに対する愛が芽生える。白いうさぎに促されて愛を告白し、二匹は森の動物達に祝福され、結婚式をあげる。二匹のうさぎの生きいきした表情、わずかな黄色のほかは墨とくすんだブルーとグリーンの色合いで描かれた絵が美しい愛を描くにふさわしい。子どもから大人まで、広く親しまれている。

### もりたろうさんのじどうしゃ

おおいしまこと文 きただたくし絵  
ポプラ社 600円

年寄りのもりたろうさんは、暑い日も寒い日も毎日郵便を配って歩いている。自動車で配達できたらどんなにいいだろうと思っていた。定年退職してから念願の免許をとり、中古車を買ひ、赤い色をぬり修理をする。ある日息子の住んでいる町まで出かける途中、銀行強盗に車に乗っ取られ壊されてしまう。でも銀行からぴかぴかの自動車を贈られる。もりたろうさんの自動車に対する愛着がほのぼのと楽しい。

### 100万びきのねこ

ワンダ・ガアグ文・絵 石井桃子訳  
福音館書店 620円

昔、あるところにおじいさんとおばあさんが住んでいた。二人だけでは寂しいので、猫を飼うことにしておじいさんが採しに行くと、猫が100万、1億、1兆匹もいる丘へやってきた。が、どの猫もかわいいので一匹だけ選べなくなってしまう。そこで猫たちには選ばせるところ、激しいけんかとなり、やせかけた猫が一匹だけ残った。ダイナミックな話の筋と流れるような木版画の線描が新鮮である。

### ふとんかすいよく

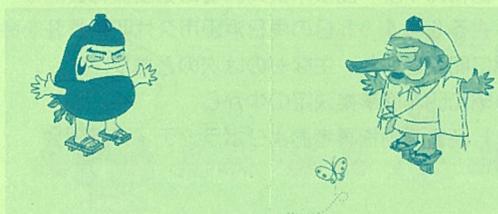
山下明生作 渡辺洋二絵  
あかね書房 880円

せっかくの夏休みなのに、中耳炎のため泳ぎに行けないカズぼうのため、父ちゃんは部屋いっぱいふとんを敷き、泳ぎっこをして遊ぶ。そこには、きらきらした真夏の太陽と、青い海がひらけてくるのだった。父と子のあたたかい心のふれあいと、生きるよろこびが描かれている。

### だるまちゃんとてんぐちゃん

加古里子さく・え  
福音館書店 480円

だるまちゃんとはてんぐちゃんの持っているてんぐのうちわ、帽子、一本歯のげた、天狗の鼻と次々にほしくなる。大きなだるまどんが出してくれるものは気に入らず、ハッ手の葉をうちわに、お椀を帽子にと独創的な工夫をこらしていく。その工夫の子どもらしい発想が楽しく、細かく描かれた漫画風の絵が子どもをひきつける。



# わが町の移動図書館と移動文庫 ① 三刀屋町教育委員会

わが町の巡回移動図書館とは、教育委員会、図書館、なかよし児童館とが協力して、鍋山の根波地区2か所へ移動して、図書を貸し出す活動です。まずどんな本を読みたいか要望をまとめ、そして本を選び箱に詰め(約300冊)運んで、開館、持ち帰って整理する。なかなか大変な活動です。現在月2回、2か所へ巡回が精いっぱいですが、他地区からの要望も多く、これにこたえるべく計画中です。

町の図書館から遠く離れ、不便な地で、巡回図書館車が来る日を、心待ちにしている人が年々多くなっていることをうれしく思います。特に、会場に着いて、子どもたち(保育所、分校児童たち全員)が手を振って喜ぶ姿を見た時には、汗も苦労も一度に吹き飛んでしまいます。ここ根波地区では親子読書も盛んで、父親、祖父母も母親と子どもにつられて読書熱が上がっています。会場で見ている、みんな本に親しみを感じておられる様子がよくわかりま

す。今後、仕事を合理化して、他地区での開館に努めたいと思います。

次に移動文庫ですが、現在町内4か所で1箱に120冊を詰めたものを置かせてもらい、自主的に活用しているのが移動文庫です。(農協の店、たばこ屋、公民館主事宅、理容院)いずれも読書活動に熱心なお宅ばかりです。当初、借りても返さない人が多く、本がなくなるだろうと考えていました。ところが逆に増えつつあるのです。近所の子育ての終わった家庭から、児童、一般図書を「役立てて下さい」と寄贈が続くのです。教育委員会ではあわてて別の本箱を準備しました。

活動すればそれなりに反響があり、読書活動もすすんでいくものだと思います。これからも小さな努力を続けていくつもりです。

5月は図書館振興月間で、町広報に図書館だよりを掲載し、読書の啓蒙をはかっているところです。

## NEWS

### ●こどものつどい

5月13日(日)13:30~15:00まで県立図書館集会所において、春季こどものつどいを開催した。今回は小学校4・5・6年生を対象に、①インタビュー「ぼく私の読んだ本」②おはなし—小泉八雲の作品から—③郷土を知る本の紹介 ④図書館利用について ⑤映画「杜子春」を行ったところ、約100名の参加者があり盛況裏に終わった。



### ●昭和59年度 島根県公共図書館協議会総会開催

去る6月4・5日の両日浜田市久代町青藍荘を会場に開催された。主なものは次のとおり

○昭和59年度事業決定の中から

1. 読書活動指導者およびボランティア講習会

昭和59年7月、出雲、石見の2会場で開催予定

2. 子どもの読書担当職員研修会

昭和59年10~11月、開催の予定

3. 図書館等読書施設職員研修会

昭和60年3月 新築の出雲市立図書館で開催予定。(現在建築中11月1日オープンの予定)

4. 図書館活動・読書関係資料交換センター活動

各加入団体で作成する各種資料を相互に交換し読書活動の充実につとめる。資料の交換は県立図書館普及係入口(1階)に設置した“図書館、読書情報交換ボックス”を活用する。

○図書館等読書施設職員の表彰式

今年度は、元出雲市立出雲図書館館長 原 宏一氏に対し表彰状と記念品が授与された。

### ●人事異動

○お世話になりました

小西伝造(商工振興課長)

坂根富夫(出納局会計課主事)

○よろしくお願いします

渡部 治(県立松江東高校事務長)

矢野信夫(安来高校主事)